



さくら通信

Vol. 40



これは日本語を話しワシントン DC 首都圏に暮らす人々のコミュニティ、「さくら協会」の季刊ニュースレターです。
 日本から来て言葉や文化の壁を乗り越え、自分のアイデンティティを保ちながら、
 アメリカでの生活を築いてこの地域に溶け込んでいくのは、短期滞在であれ、永住であれ大変な作業です。
 そんな中で互いに助け合い、人との交流を広げていけば、
 ひとりひとりの生活が、もっと豊かになるのではないのでしょうか。

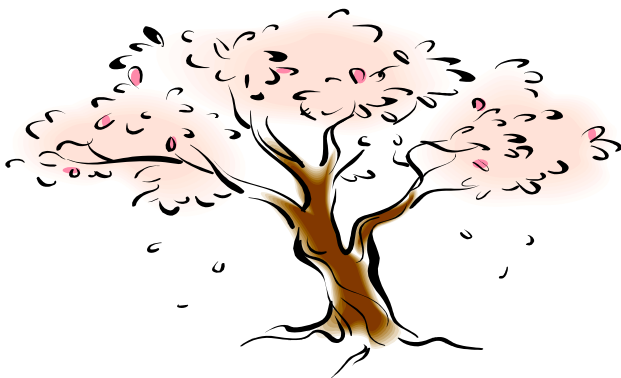
発行: さくら協会 編集担当: パークリー千恵、ガイス充子

P.O. Box 1694, Rockville, MD 20849-1694 ● ボイスメール: 202-310-1442 ● Eメール: info@sakuradc.org

Web サイト: <http://www.sakuradc.org>

❀ 目次 ❀

- 真夏の畑で学んだこと.....2
- 離婚相談の経験から.....5
- 1たす1は?.....13
- おかずのアイデア.....15
- 活動報告.....16
- 会員申込書.....19



今年は9月に入ると気温が一気に下がり、突然秋に突入してしまったようです…。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

いつもこの時期になると、日本のおいしいものが恋しくなります。秋刀魚の塩焼き、松茸のどびん蒸し、戻り鰹、栗ご飯……考え出したらキリがありません！！(いや、実は考えるだけでも楽しく過ごせるようになってしまった今日この頃です)。日本ほど季節による食べ物のメリハリがないように思えます(失礼！)が、アメリカでも秋の食べ物と言えば、実はいろいろあるようですね。パンプキンパイ、アップルサイダー、イチジク、バターナトスクアッシュ等……。

ファーマーズマーケットもまだやっているところがあると聞きました。季節の野菜や果物には、その時期にしか得られない貴重な栄養素も含まれています。地元のおいしい野菜を上手に使って、おいしい秋を堪能してください。



が反射するとマジカルなものさえ感じる。昔の日本人は、自然の変化に対して非常に敏感だった。今ではコンピューター、テレビ、スマートフォンなどの影響で、多くの人々が悲しいかな、自然から遠ざかってしまった気がする。

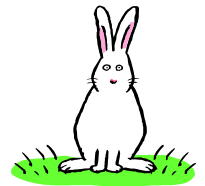
木陰で涼風がさあーと汗を吹きとってくれる時、我に戻って仕事、仕事と自分に言い聞かせながら手を動かす。小さい畑なので限られたものしか植えられない。キュウリ、トマト、モロヘイヤ、三ツ葉、小カブ、ニラ、青しそ、ししとう、みょうがくらいで畑はいっぱい。先ず畑を耕し、肥料をまき種子を蒔く。ひとつひとつの植物にガンバレ！、ガンバレ！と応援し、水をまき草を取り、気長にその成長を見守る。お百姓さんと母親は似ているところがあるのに気づく。毎日のように草取りをする。草というのは、取っても取ってもすぐ生えてくる。草取りをしていると、よく見ていないと本物かニセ物か分からないくらいよく似たニセ物の草がある。時々、モロヘイヤの中にとてもよく似た草が混じっていて、抜いてみると葉にギザギザがなかったり、ツヤが違ったり、根っこ近くの茎がピンクがかった色だったりする。人生においても何事もよく見つめ観察して、本物かニセ物かを確かめられる自分の感覚を磨いておかないと、と考えさせられる。



ようやくモロヘイヤとキュウリが腰くらいの高さになって喜んでいたら、ある夜、鹿らしきものが来て、柔らかい芽だけ食べるのではなく、茎からくわえて振りちぎった

ため、折角大きくなったモロヘイヤも茎からちぎれてめちやめちや。キュウリは花が一杯咲いてこれからというとき、全部柔らかい葉だけ食べられてしまって茎だけが残り、モダンアートのように突っ立って残っていた。くやしかったり悲しかったり。考えてみれば鹿だってお腹が空くのだし、あきらめるより他はない。でも残ったものをかばおうと、5フィートのフェンスを買ってきて畑を囲うことにした。

その翌日、小カブの柔らかい葉が大分大きくなって、明日は三つ葉のおひたしとラディッシュの葉を摘んで手もみの浅漬けを作ろうと思って畑に出たら、なんと柔らかい若緑の葉は三つ葉もすっかりきれいに丸坊主。三つ葉もラディッシュもすっかり平らげられてしまって、何とも複雑な気持ち！きっとウサギちゃん、家族総出でピクニックに来たのかもしれない。ウサギちゃんにとってもおいしいグルメオーガニックサラダだったのだろう・・・。



2時間以上腰を曲げて働いていると汗がにじむどころか、身体を伝って流れていくのを感じる。どこからでもポトポトと汗がモロヘイヤの上に落ちる。時には汗が目にしみ、涙になってこぼれる。小さなキズに汗がしみる。真夏の日照りは容赦なく赤くなった頬をヒリヒリと焦がしてゆく。そんな時、ぬるま湯にも似た風が肌をさすってくれると、慰められたようにホッとする。

若いときは一日中外で畑仕事が出来たのに、今では3時間以上畑仕事をすると腰も肩もミシミシしてきて、この辺が限界と自分に言い聞かせて腰を伸ばし、青空を木の葉の間から見上げる。木の葉の合間からの真夏の太陽は、力強くエネルギーがこもっていて、散りばめたダイヤのように照り輝く。実に美しい。ゆれる大小様々な葉っぱを下から見上げるのも美しい。

長いようで短い人生、一日一日を大切に、自然に学びながら最後の日を迎えるとき、これでよかったと思えるように努力して生きていきたいものだ。

今日も黙々と働くことが出来た喜びに満ちて、手を合わせ床に就く。

おかげさま。私は幸せ者。

岡本京子

ワシントン桐朋琴ソサエティ 主宰



離婚相談の経験から

木村 洋

アメリカ暮らしも我々ほど長くなると、他の日本人、特にこの国へ来て間もない人達から、色々な人生相談を受けるようになる。中でも多いのは離婚の相談で、特に日本人の女性とアメリカ人の男性、それも軍関係などで日本に滞在していた白人の男性であることが多い。而もそういう事例を幾つも扱っていると、それらに共通の一定のパターンがあることが分ってくる。勿論これは限られた範囲内での話で、統計的にどうこう言えるようなことではなく、観察も個人的なものに過ぎないが、それでもひよっとしたらこんな話を聞けば、何か思い当たられる読者もあるかも知れないので、それを少しまとめてみることにした。



ジャパン アソシエイツトラベル
旅行のことなら 何でもご相談ください。

Japan Associates Travel
2000 17th St., N.W.

Washington, D.C. 20009

Tel: 202-939-8853 Fax: 202-462-9233

メール: jattravel@hotmail.com

そして！DC唯一の日本食料品店

ハナマーケット

を同じ住所で新規開店いたしました。

合わせてご利用ください。

信じやすさとやられやすさ (Naivety and Vulnerability)

離婚の相談を持ち込まれてまず驚くのは、その相談を持ちかけてきた本人、つまり離婚したがっている日本人女性の多くが、本当は離婚したがっていない、或いは自分自身離婚したいのかしたくないのか分らないでいる、それどころか逆に夫から迫られた離婚を我々が止めてくれるよう、秘かに願っていたりする、更によによっては家庭内暴力をふるう夫に、もっと身を任せたいと願っていることすらあることだ。言い換えれば彼女達は自分で離婚すると決めて、その手続きの仕方や、

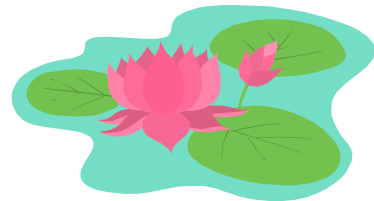
で申し分がなく、およそそんな暴力的アメリカ人とくっつくなどとは夢にも考えられないような人が、結構いることも、説明がつくというものだ。つまり彼女達は日本の社会では、二重三重に保護された中で自由奔放に育ったために、伸びやかで信じやすい一方、下手な日本人の男の手には絶対に落ちないように出来ていたのに、親も本人も全く対処の仕方を知らない別世界から突然現れたアメリカ人には、ころっといってしまっ、気がついた時にはもう結婚していた、などということになったのではないか。

だからこの問題を正そうと思ったら、こういう結婚をしてしまった女性各個人を責めてみても仕方がない。問題は一億総お人よしの文化の方にあるのだから、それを何とかしない限り、今後も同様の問題はずっと繰り返されるだろう。かといって、この穏やかで優しい日本文化を、闘争的な欧米の文化に変えてみたところで、恐らく全体としては失うものの方が多いだろうから、ここはやはり結婚問題だけに絞って、過度のナイーブさややられやすさに歯止めをかけるような、文化的対策を講じる他はあるまい。その点では欧米の文化には学ぶべきものがある。日本も「ゆとり教育」などという呑気なことをやっている暇があったら、もっとずっと実用的な、「自分の隙(スキ)の見つけ方」、「甘い口説きの見抜き方」、「独立自尊の真の意味」、「本当に頼れる男とはどんな男か」などを、もっとシステムチックに、子供達に教えてはどうか。



破滅的性格

家庭内暴力のケースを幾つも扱ってみて私が思うのは、暴力をふるう方は文句なしに悪い、絶対に許せないにも拘らず、やられる側にもそれなりの問題があるということと、彼女達は精神異常でも性的マゾヒストでもなく、どちらかといえば破滅的性格の持ち主とでも呼ぶ方が当たっているということだ。それも彼女達が意図して自分の人生を破滅させようとしているのではなく、勿論自殺を願望しているわけでもなく、単に自分でも分らぬ内に、なぜか常に自分が損する方へ、傷つく方へ、破滅する方へと歩いていってしまうように、プログラムされているとも言った方がいいような、どうしようもない状況らしいのだ。



自ら進んで破滅へと迷い込んでしまう、その種の女性の「だまされやすさ」、「行き過ぎた思いやり」、「苦難を求める傾向」、「許しと愛との混同」、「危険に対する無感覚」などは、離婚訴訟を通じて治せるような性質のものではなく、もっとずっと長期間の専門的治療や、真に理解ある夫に守られた平和な暮らしを必要とするのだが、残念ながら問題が表面化した時点では、状況が逼迫していてそんなことを考えている暇はない。一旦暴力が明るみに出た夫は、自分だけ罪から逃げ切ろうとして次々と手を打ってくるから、こちらもいつまでも妻が本当に望むのは何なのかを、探し続けてばかりいられない。

而も一旦は離婚を決意したように見える女性でも、本当にそうかどうかは、何度も話してみないことには分からない。離婚というのは夫婦の肉体関係から、損得勘定、見栄、外聞、意地、恨み、復讐心まで、色々から

定的な事ばかりで、「それにどう対応したらいいのか」という建設的解決方法は一つ示されないため、娘は外見だけは健康に育っても、心の底では常にびくびくして、ちょっとでも自分の方が母親より幸せになりかかると、無意識の内に自らその幸せをぶち壊すようなことをする。

而もそのやり方は非常に手が込んでいて、例えば理想のボーイフレンドが出来て、彼から結婚の話が出そうになると、急に彼を怒らせたり、失望させたりするようなことをする。而も彼女は自分がなぜそんなことをするのか、気付いていないため、彼が悪いからだと感じたり、周りの状況のせいにしてたりする。こうして母親自身の結婚に対する呪いは、見事に娘にも受け継がれ、不幸な結婚が繰り返されていくことになる。母親は娘の不幸を見て涙を流すかも知れないが、それは実は自分自身の不満だらけの結婚生活への、哀れみの涙でもあるのだ。



こうした娘がその幸せ恐怖症に打ち勝ち、本当に幸せな結婚をするには、相手の男が余程成熟していて、娘が無意識の内にやる攪乱工作に動じないだけでなく、彼女が勝手に傷ついたり、身を引いたりするのも補って余りある程、強い愛情と指導力で引っ張っていきただけの度量を持っていなければならない。然し今の日本の若い男にそれを期待するのは無理だろう。いい年

こいてまだ母親の胸にしがみついているような男達に、幸せ恐怖症の娘達を引っ張っていくことなど、とても出来そうにない。娘達も暗にそれを知っているから、同年輩の日本人の男には目もくれないのではないか。そんなところへ突然、見かけだけはいかにも頼りになりそうなアメリカ人が現れて、「君を絶対幸せにしてみせる」みたいなことを言えば、娘がころっと行くのも無理からぬ所ではないか。この辺にも両国の、「お人よし文化」と、「押しまくり文化」との差が、はっきり出ているような気がする。

家庭内暴力と逃げ道のなさ

暴力男は、妻を痛めつけたあとは彼女に詫びるのが普通で、謝り方も次第にエスカレートしていき、花を送ったり、食事に連れ出したり、泣いたり、土下座したりと、迫真の演技が繰り返される。実に不思議なのはそんな時、女性の方はそうした演技を全て額面通りに受け止めて、彼は本当に改心したと、毎回本気で思うらしいことだ。それどころか、暴力の現場を警官に押さえられて、男が牢屋に入れられたりすると、妻の方が本当は自分が悪かったのだなどと、嘘をついてまで、夫の釈放のために奔走することが多い。こうなってくるともう完全に病的で、夫婦のどちらが本当に問題なのか、分からなくなってくる。

夫の暴力で傷だらけになった妻が、周囲からの援助でやっと立ち直ったと思ったら、またその男の所へ戻っていくなどというのは、正常な神経ではとても考えられない現象だが、実際には何と平均して7回も、そういう女性は同じ男の所へ戻っていくという。そんな彼のところへ彼女が戻っていくのは、ただただ彼の仕返しが怖いからだろうと思っていたら、必ずしもそれだけではなく、「彼から離れたらもう本当に誰もいなくなってしまう」という、彼女自身の孤独感、人間関係の乏しさ、生活能力のなさなど、現状維持以外の「逃げ道のなさ」も、

はあれ、殺人者として非難されることは少ない日本とは、対照的である。社会が率先して子供達独自の命と利益を守ろうとする姿勢、それは個人の自由と尊厳を国是とするアメリカならではのことだろう。

人により千差万別だとはいえ、法手続き上一般的に問題になるのは、金と子供で、他に家庭内暴力があればその処理と、妻が独立後アメリカに残りたい場合には、グリーンカードの取得に関する処理が加わる。別居期間は、バージニアの場合は 18 才以下の子供がある場合には 1 年、子供がなく、而も別居開始時点に財産分割や扶養義務に関する合意書 (Property Settlement Agreement - PSA) がサインされていれば、半年間、必要とされる。別居手当や、離婚成立後の扶養義務は、初めから二人が合意して、PSA の中に書いておけば、まずその通りになるが、金額は結婚していた期間や、夫の収入、妻のニーズ、などによるので、一概には決められない。子供に対する親権は、扶養能力によるところが大きいので、妻に収入がなく、この国で働く可能性も限られている場合には、夫の方へ行く可能性が高い。



日本人女性の場合、お金はもらわなくてもいいから、子供だけつれて日本へ帰りたいと希望する人が多いが、それでも日本へ帰った途端から、相当の収入が保証されていない限り、一方的な親権を取るのは難しい。そのため、夫に黙って、或いは一時帰国を装って、先に子供をつれて日本へ帰ってしまい、日本で離婚訴訟

を起すという例もある。どちらかの国で先に訴訟を起してしまえば、もう一方は別の国で二重に訴えを起すことは出来なくなるが、それだけの実力行使には、それなりの物理的リスクが伴うし、日本側でも英語が出来て、アメリカ領事館などからの圧力をはねのけ、日本での離婚訴訟を成功させてくれるような、有能な弁護士を見つけなければならない。この場合、家庭内暴力に関する強力な証拠が揃っていれば、そうした実力行使も弁護士易くなるし、現に日本で訴訟に成功した例も幾つかある。ただ帰国した先が日本の地方都市だと、法廷や市役所が余りそういうケースに慣れていなくて、手続的に色々な摩擦が生じることもある。従ってこういうやりかたをする場合には、女性自身が余程しっかりと離婚の決意を固め、いかなる困難にぶつかっても、絶対に子供はつれて日本へ帰るのだという、強い意志を持っていることが大前提となる。

もう一つよく問題になるのは、妻が自分に生活力がないことを、必要以上に弱みに感じていて、例えば相談料も払えないから、弁護士は雇わず、夫が出してきた不当に厳しい条件の合意書に、黙ってサインするしかないかと思っていたり、少しでも安くしようと、訴訟ではなく、仲裁 (Arbitration) の方法を選び、結局は合意の内容まで夫まかせにしてしまったりすることだ。然し日本円に換算すれば意外に安く思う程度の弁護士料など、親や友達からかき集めてでも払って、自分の正当な利益を主張するぐらいの腹がなければ、初めから弁護士をつけて離婚を画策している夫と、正面から対抗することなどとても出来ない。それだけの覚悟がないのなら、その人は結局、結婚という人生の局面全体で、初めから負けていると言わざるを得ない。



るし、そうしたら途中で交通事故にあつて、クライアントが傷つくなどということがある可能性も、承知してかからねばならない。状況によっては一人でクライアントの家を訪ねなければならないこともあれば、自宅の電話番号をクライアントに知らせなければならないこともある。それらを全て断って、ガチガチのルール通りにやっていたら、安全で機械的なサービスは出来るかも知れないが、クライアントのニーズにぴったり寄り添った、「本当の援助」にはならないかも知れない。

その辺は医者や看護師がどこまで患者のニーズに合わせたサービスを提供するかという問題と同じことで、究極的には援助を提供する者の、個人的判断に委ねるしか仕方がない。逆に言えば援助に当る者は、そのサービスを提供するに当って、自分自身のリスクをどこまで受け入れる用意があるのか、それを常に問われていると言える。而もそのリスクには、身体的、精神的リスクだけでなく、経済的、社会的、法的リスクもあって、それをみんな背負い込んだ上で、タダのサービスを提供しようというのだから、人助けのためのコミットメントが余程しっかりしていなければ、自分はどこまでやるのかという疑問に対する、正確な答えは出し難い。まただからこそクライアントからすれば、「誰にアドバイスを求めるか」が重要なのであって、くちこみでいい医者を探す場合と同様、何とかしてまずいいアドバイザーを見つけるということが、極めて重要になるだろう。



1たす1は？

医師 ハンター紀子

実際医者になってみて、だんだん経験を積みれば積むほど、自分の知識がいかに浅かったかという事に気づかされる。毎日の診療でも、医学書には書いてなかった事に多くぶつかる。患者さんには申し訳ないが、臨機応変、自己流医療を結構やるようになってしまった。

子供が小さかった頃は、おむつかぶれに良く悩まされたが、実際医学部では習わなかったもので、子育て経験のあるお母さん方から教えてもらった。それを知らない患者さんたちは、何処そこの有名な医学書の伝授と信じて疑わない。



糖尿病という持病持ちになった今、薬は毎日呑んでいるが、実際は忘れて、おっくうで呑まなかったりする日もある。血糖値も毎日計ってない。しかし、私ばかりではない。医院に来る患者さんもそのパターンの人が多いのだ。

医者になりたての頃は、患者さんに処方箋を書けば、その通り指示に従って薬を呑んでくれると信じて疑わなかった。しかし、患者さんは教科書通りに治ってくれない。その理由は、医学書には書いてなかったこのような患者さんファクターなのだ。

先日地域の婦人会の主催で骨粗鬆症の講義をした。骨粗鬆症は、女性ホルモンの低下と共に骨がもろくなる病気で、閉経後の女性の骨折の原因になる病気だ。カルシウム(1日1200mg)、ビタミンD(1日400-8

おかずのアイデア！

きのこたっぷり野菜の蒸し煮

たっぷり野菜の蒸し料理がフライパンで完成！素材の味わいが1つになって、じんわりおいしいヘルシーレシピです。

材料（4人分）

ホクトのエリンギ 100g、ホクトのブナシメジ 100g、ナス4本、トマト1個、ベーコン2枚、塩、黒こしょう 少々

1. エリンギは食べやすい大きさに切る。ブナシメジは石づきを切り、小房に分ける。
2. ナスは斜め切り、トマトは1cm位のザク切り、ベーコンも1cm幅位に切る。
3. きのことナスに小さじ半分程ずつ、塩をまぶす。
4. フライパンにベーコン、ナス、きのこの順に重ね、最後にトマトをのせる。
5. 蓋を閉め、中火で約10分蒸し煮にし、全体を混ぜ合わせ、最後に黒こしょうを振る。

*コツ・ポイント

■きのこことナスにはあらかじめ塩をして、味をなじませておきます。それぞれの素材を層にしてから調理するのが、おいしく作るコツです。

■色よく仕上げるために、蒸し煮をしている間は蓋を開けないようにしましょう。



チーズ入りクラムチャウダー

アサリ缶を使用するので、一つのお鍋で出来ます。チーズが入り、コクのある仕上がりに。私の大好きなスープです♪

材料（4人分）アサリ缶(水煮) 1缶、ベーコン4枚、玉ねぎ1/2個、セロリ1/2本、ジャガイモ2個、バター大さじ2、小麦粉大さじ2、水300cc、白ワイン(なくてもOK)大さじ2、タイム(生)(なくてもOK)1枝、牛乳200cc、生クリーム(牛乳で代用可)50cc、パルメザンチーズ15g、塩、コショウ 適宜、パセリのみじん切り 適宜



1. ベーコンは縦横5mm程度に、玉ねぎとセロリはみじん切り、ジャガイモは皮を剥いて1cm角に切ります。
2. 鍋にバターを熱し、弱火でベーコンを炒め、脂が出てきたら玉ねぎ、

セロリの順に加え、じっくり10分程度炒めます(焦がさないよう注意！)。

3. 2の鍋に小麦粉を入れ、木べらで混ぜながら約1分炒めたら、水を少しずつ加えながらのばします。さらに、白ワイン、ジャガイモ、タイムを入れて、20～30分程度煮ます。
4. 3に牛乳、生クリーム、パルメザンチーズ、アサリ缶(缶汁ごと!)を加え、沸騰直前まで温め、塩・コショウで味を調えます。
5. 器に注ぎ、最後にパセリのみじん切りを飾って出来上がり♪

*コツ・ポイント

■ポイントは、じっくり炒め、比較的長い時間煮込むことです。■アサリ缶は、固形量65g、内容総量130gのものを使用しましたが、多少前後していても大丈夫です。(ガイスあつこ)

るにはどうしたらいいか、日本文化を如何に継承していくか、会話や読書を通して日本語をどのように使い分けているかなど、様々な経験や感動的な先輩方のお話を、時にはシリアスにときには大笑いしながら聞かせていただきました。2 学期の大型行事はなんと言っても10月16日の運動会です。実行委員を中心に歌、踊り、ゲーム、そしてさくら学園の目玉出し物「お父さんによる威勢のいい応援団」が今年も披露される予定です。そして園児が待ちに待っているクリスマス会でしめくります。

駆け足で 2 学期も過ぎ去ることでしょうが、一回一回心を込めて、保育を行い、子供たちにとってかけがえのないさくら学園での思い出作りに精一杯励んでまいりますので、今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。新しい校舎にも是非お立ち寄り下さい。園児・保護者一同、お待ち申し上げます。(さくら学園園長 小林 知代)

さくら学園は、保護者が運営する日本語幼稚園です。各クラスには専任教師がおり、持ち回りで保護者がレッスンやイベントをサポートしています。毎週土曜日午前中に、メリーランド州モンゴメリー郡の公立小学校である Garrett Park Elementary School を借りて活動しています。(2010 年 9 月より Ashburton Elementary School に移動する予定)。バージニア州や DC から通園しやすい場所です。入園をご希望のご家庭は www.sakuradc.org/kinder/ をご覧の上、Eメール (yochien@sakuradc.org) にて、お気軽にご連絡ください。

2010年度 さくら協会年次総会 報告

9月11日にポトマックコミュニティセンターで、恒例の年次総会がありました。協会からの1年間の報告をするとともに、会員の皆様のご意見を直接伺う素晴らしい機会をもてました。

積立金の用途、今後のさくら協会の在り方についてじっくりと話し合うことが出来、充実した集まりとなったのも、日ごろ関心を持ち当日も足をお運びくださった熱心な会員の皆様のおかげです。承認事項としては、さくら協会創立以来の目標であったシニアハウスの建設が資金面で現実不可能と判断し断念せざると得ないということ、それに伴って会員の皆様に還元すべくバスツアーやランチの集いなどを企画するべく今年1年検討する、ということになりました。会費は過去10年来据え置き25ドルとし、積立の5ドルは物価の上昇に伴いかかる運営経費にあてることになりました。

今後とも皆様の声に耳をかたむけ、より地域に密着した実りの多い活動が出来ますよう、事務局メンバー一同邁進してゆく所存です。どうか引き続き、ご指導くださいますようお願い申し上げます。(バークリー)



モンゴメリー郡シニアセンターのご案内

モンゴメリーカウンティーには 4 つのシニアセンターがあります。それぞれのセンターでは、もちろん英語ですがヨガやクラフト、コンピューター教室、健康チェック、小旅行などさまざまな活動を行っています。また、月曜から金曜日は事前予約が必要ですがお手ごろな値段でランチも食べられるようになっています。一度見学してみたいという方には、常時案内しているようですので連絡を取ってみたいかがでしょうか。

The Holiday Park Senior Center

3950 Ferrara Drive, Wheaton, MD 20906
Tel: 240-777-4999 www.holidaypark.us
モンゴメリーカウンティーで一番大きなシニアセンターで、Connecticut Ave. と Veirs Mill Rd.の交差点の近くに位置しています。

✿ 会員を募集しています ✿

さくら協会は、発足 8 年目の非営利団体 (NPO) です。このニュースレターをお読みになって、趣旨にご賛同いただけましたら、ぜひご入会ください。さくら協会では、日本人、日系人同士の交流と相互補助、地域コミュニティとの親和を目指して、3歳から5歳児のためのさくら学園、毎月のランチグループやお料理教室が楽しめるシニアネット、三味線や尺八などのエンターテイメント、年4回発行のさくら通信、健康や教育に関するセミナーなどを提供しています。

メンバー年会費(4月~3月)は25ドルです。アメリカ国外に在住の方は、郵送料が高額のため、35ドルとさせていただきます。会員には、イベントやセミナーのお知らせを随時メールなどでご連絡し、「さくら通信」を郵送でお届けします。また、さくら学園、シニアネットをはじめとした各種アクティビティへの参加が可能です。

入会ご希望の方は下記の申込書をご記入の上、**Sakura Association, Inc.** 宛てのチェックとともに、

Sakura Association, Inc.

P.O. Box 1694, Rockville, MD 20849-1694 までお送りください。

✕*****きりとせん*****

会員申込書

日付 年 月 日

新規会員 継続会員(いずれかに丸) *活字体でお願いいたします。

氏名(英語): _____ (日本語名): _____

住所: _____

電話番号: _____ FAX 番号: _____

FAX は自動受信ですか? (いずれかに丸) 自動受信可 切替必要

E メールアドレス: _____ 日本語のメールは? OK 読めるだけ 不可

同封金額: _____ドル

さくら協会を何で知りましたか? さくら通信 Web サイト 友人 その他()

よろしければあなたの年齢層をお教え下さい。 20代 30代 40代 50代 60代 70代+

シニア向けの活動を電話連絡してほしいですか? はい いいえ

よろしければ出身地(都道府県)を教えてください ()

Sakura Association, Inc. 宛ての\$25(アメリカ国外在住の方は\$35)の小切手を添えて、P.O. Box 1694, Rockville, MD 20849-1694 までお送りください。さくら協会は非営利団体 (non-profit organization) です。で、会費は米国所得税控除対象となります。ご寄付も歓迎致します。よろしければ今回、ご寄付の金額を加算したチェックをお送りください。(年会費は4月から翌年3月末までの1年間有効です。但し、1月から3月の間にご入会の場合に限り同年4月からの年会費が免除になります。)

